

5. 水産情報発信事業

石原 幸雄

目的

鳥取県沖合域の水温状況や漁獲れる魚の資源状況及び試験研究成果を水産関係者等にわかりやすく大型ポスターなどにより情報提供を行う。

方法

(1) 大型ポスター

海洋観測結果、試験研究成果、各種お知らせについて、漁業協同組合及び県関係施設に大型ポスターである「魚取新報」を掲示した。

(2) ファクシミリ及びホームページ

水揚げ情報、人工衛星画像、試験操業情報、漁況情報等をファクシミリおよびホームページ等で情報提供した。また、12月から新たに、沿岸潮流観測ブイの観測結果の公開を開始した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカ及の他県の漁模様及びスルメイカの水揚げ状況を電話で案内した。

(4) 連絡会議、報告会等

海況及び浮魚類、底魚類、イカ類の漁況並びに今後の動向について境港漁海況連絡会議を年2回(11月、3月)、に開催した。マアジ及びクロマグロの資源状況等について7月に報告会を行なった。

(5) レポート

1年間の海洋環境、水産資源、試験研究結果をわかりやすくした「海洋環境・水産資源レポート」を作成を行なった。

結果

(1) 大型ポスター

県内各漁協(支所)22箇所、山陰海岸自然科学館1箇所、鳥取県庁2箇所、賀露かっこ館1箇所、西部総合事務所(西部県民局)1箇所、夢みなとタワー1箇所、水産試験場1箇所、栽培漁業センター1箇所、境港水産物直売センター1箇所、境港水産物地方卸売市場3箇所に海況情報等を月1回掲示した。

また、第一回境港まぐろ感謝祭(7月3日)では、クロマグロについてのパネル展示を行うと

ともに、境港水産祭り(10月9日)では、試験船第一鳥取丸の体験乗船及び鳥取県産ハタハタの美味しさ説明展示、焼き干しハタハタの試食を行った。鳥取市で開催された第31回全国豊かな海づくり大会(10月29~30日)においてはハタハタの耳石取り体験やチリメンモンスター探し、沖底改良漁具模型展示などを行った。

(2) ファクシミリ及びホームページ

境港におけるまき網及びスルメイカの水揚げ情報、栽培漁業センター取水口における水温、隠岐島定期フェリーによるXBT観測については、旬ごとに県内漁協、各県水試、新聞社、水産研究所等91カ所にファクシミリで配布した。

海洋観測結果、試験船調査速報、境港の漁獲量や市場調査状況、水温等の人工衛星画像についてはホームページ<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=72009>に更新するとともに、適時水産関係者等にファクシミリ文書を送信した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの長崎県・兵庫県の漁模様及びスルメイカの水揚げ状況について週2回電話応答案内サービス(電話 0859-45-4505)の更新を行った。また、県内2箇所を設置した沿岸潮流観測ブイの観測結果の公開を12月から開始した。

(4) 連絡会議、報告会等

11月21日及び3月22日にまき網、イカ釣、沖合底びき網、ベニズワイかにかご漁業を対象とした境港地区漁海況連絡会議を開催した。

7月29日にマアジ新規加入量およびクロマグロの資源状況について報告会を開催した。

(5) レポート

平成23年の海洋環境と水産資源の状況や水産試験場の一年間の試験研究結果をわかりやすく説明した「海洋環境・水産資源レポート」を平成24年5月に作成し、ホームページに掲載するとともに水産関係機関等に配布した。